

平成 25 年 度
事 業 報 告 書

自 平成 25 年 4 月 1日

至 平成 26 年 3 月 31日

目次

■ 事業の概要	1
■ 具体的な取り組み		
【公益目的事業会計】		
1 アジアに開かれた学術研究拠点の形成		
(1) 大学間連携促進事業	5
(2) 留学生支援事業	5
(3) 研究基盤整備推進事業	7
(4) 学研都市人材育成事業	7
2 技術開発支援による新事業の創出・技術の高度化		
(1) グリーンイノベーション・ライフイノベーションの推進	10
(2) 産学連携推進事業	12
(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業	16
(4) 地域イノベーション戦略支援プログラム	17
(5) 北九州技術移転機関（北九州TLO）運営事業	18
(6) 半導体技術推進事業	18
(7) カーエレクトロニクス拠点推進事業	20
(8) ロボット開発支援推進事業	22
(9) 北九州市委託事業	25
3 地域企業への経営支援と創業の促進		
(1) 中小企業経営支援事業	26
(2) 北九州知的所有権センター運営事業	28
(3) ベンチャー育成補助事業	28
4 学研都市のPRと効率的な施設運営		
(1) 効率的な財団運営	30
(2) 学研都市の知名度の向上	30
(3) 学術研究施設等管理運営事業	32
【収益事業等会計】		
(1) 学研都市施設活用事業	34

【法人会計】

(1) 財団の管理運営等

..... 34

■ 事業の概要

当財団は、平成13年に地域の産業を支える知的基盤として開設された北九州学術研究都市を中心に、地域に集積する大学・研究機関と産業界の連携をコーディネートする機関として、また、中小企業・ベンチャー企業の総合的な支援機関として活動している。

現在、学研都市では、国・公・私立の大学1学部4大学院、企業49社及び研究機関16機関等が集積し、学生2,249名（うち留学生480名）、教員162名、その他企業関係者などを合わせて3,135名（平成26年5月1日現在）が、教育や研究開発等に取り組んでいる。

平成25年度、当財団は主に次のような事業に取り組んだ。

アジアに開かれた学術研究拠点の形成

- 産業のグローバル化の進展の中で、高度人材として活躍が期待される優秀な留学生と地域企業とのネットワーク構築を支援するため、「北九州学術研究都市冠留学生奨学金制度」を創設し、市内の中小企業1社、ベンチャー企業1社の冠奨学金が具体化した。
- 学研都市3大学による連携大学院「カーエレクトロニクスコース」「インテリジェントカー・ロボティクスコース」では、通常の課程に加え、研究インターンシップ（2名）や企業と学生の意見交換会であるオフサイトミーティング（企業14社・学生延べ311名が参加）等独自の支援プログラムを実施して、高度専門人材の育成に取り組み、平成25年度はカーエレコース27名、カーロボコース39名の修了生を輩出した（修了生の多くが、大手自動車メーカーや電装メーカー等に就職）。
- 平成24年度に引き続き「ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業」を実施し、学生主体のものづくりプロジェクト「ひびきのハイテクチャレンジ」の公募、助成（採択6件、学生90名参加）を行った。また、大学や企業等と連携した実践的な講習会を開催するとともに、ものづくり活動のフィールドを提供した。

- 半導体技術者が必要とする関連技術の習得を目的とした講座「ひびきの半導体アカデミー」を12講座開催し、408名が受講した。

技術開発支援による新事業の創出・技術の高度化

- 「第13回産学連携フェア」(10月23日~25日:来場者数約7,900名)開催のほか、「産学交流サロン(ひびきのサロン)」を9回(約1,100名参加)開催し、学研都市における「産」と「学」との出会いの場を創出した。
- 大学・研究機関や市内中小企業等が行う産学連携研究開発に対して、34件(低炭素化技術関連の12件を含む)助成し、新技術・新製品の開発を支援した。
- 地域内外の企業や大学との活発な共同研究を促進するため、「北九州医歯工連携研究会」など合計24研究会を運営するとともに、国等の研究開発資金を活用した産学共同研究プロジェクト10事業を実施した。
- 福岡県、北九州市、福岡市、(財)福岡県産業・科学技術振興財団と連携し、知的クラスター創成事業等で創出した研究成果の事業化や、「高度情報化社会」「低炭素社会」「健康・長寿社会」等の次世代の社会システムに必要な技術・製品の創出に取り組んだ。
- 北九州TLOを中心に、大学等から創出された研究成果の特許化と企業への移転を積極的に進めた結果、平成25年度末の特許出願件数は430件(累計)、企業へ技術移転した件数は207件(累計)となった。
- 「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」では22の研究会を運営し、さらなる研究開発を支援するとともに、「LED NEXT STAGE 2014」(東京ビッグサイト)を始めとする5件の展示会等への出展や、ひびきの発の新商材を用いた若戸大橋ライトアップ実証実験の実施など、協議会の活動成果を市内外に幅広く情報発信を行った。
- カーエレクトロニクス分野では、自律走行研究会など6つの研究会の運営と、自動車メーカーと地域大学等による3件の共同研究を支援した。

- ロボット分野では、「産業用ロボット導入支援センター」を開設し、ロボット技術を活用した地域企業のものづくり力強化と生産性向上を支援した。

また、北九州ロボットフォーラムの運営やロボティクス分野における新たな研究プロジェクトの立ち上げ、試作品作りへの助成（1件）等を行った。

地域企業への経営支援と創業の促進

- 創業や経営革新に積極的に取り組む中小企業経営支援として、総合相談（947件）や専門家派遣46社（延べ192回）を実施した。
- 企業ニーズを積極的に掘り起こしていくため、企業に出向く巡回専門相談（289件）や、マネージャーのネットワークや経験を活用したビジネスマッチング支援{104件、うち10件（2,684万円）成約}に取り組んだ。このほか、自動車産業への参入促進に必要な生産技術・品質管理の向上、コスト削減等に向けた支援を行った（助成件数4件）。
- ベンチャー企業等の成長を支援するネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ（KVIC）」において、経営課題解決支援や販路開拓・資金調達等のためのマッチング機会の提供等を行った。
- IT関連のベンチャー企業の創出・育成を目的としたセミナーや交流会などを開催するとともに、市内5か所のインキュベーション施設に入居するベンチャー企業（23社）に対して、インキュベーション・マネージャーによるきめ細かい支援を行った。

学研都市のPRと効率的な施設運営

- 学研都市での産学連携成果をPRするため、工業系全国紙とタイアップして企画連載記事（計10回）を掲載するとともに、その記事をもとにした冊子「北九州学術研究都市の産学連携最前線 Vol.1」を作成（5,000部）して、広報に取り組んだ。
- 平成24年度に創設した「FAIS職員提案制度」について、平成25年度は、10件の提案（応募29件）に取り組むこととし、賃借料（コピー機リース料、会議室の借り上げ等）の見直し、旅費交通費・消耗品費の節減などにより、事務費を対前年度比10.6%（4,974千円）削減した。
また、職員配置や給与の見直しにより人件費を44,805千円削減した。
- 北九州学術研究都市の指定管理者として、学研都市内施設の効果的・効率的な管理運営を行うとともに、北九州テレワークセンターの指定管理者として、インキュベーション施設の効果的・効率的な管理運営を行った。

■ 具体的な取り組み

【公益目的事業会計】

1 アジアに開かれた学術研究拠点の形成

(1) 大学間連携促進事業

○ キャンパス運営委員会の開催

学研都市の大学の代表者等によって構成されるキャンパス運営委員会を開催（2回：8月2日、3月20日）し、産学連携、大学間連携及び学術情報等に関する協議を行った。

○ ひびきの賞(修士論文)事業

学研都市の大学院に在籍する修士課程の学生を対象に論文を募り（各大学からの推薦数9編）、優秀者に対し、「ひびきの賞(修士論文)」の表彰を行った。

*最優秀賞 1編（早稲田大） 優秀賞3編（北九大1、九工大2）

(2) 留学生支援事業

○ 【新規】学研都市留学生ビジネスネットワーク構築支援事業

産業・経済のグローバル化の進展の中で、高度人材としての活躍が期待される留学生と地域企業のネットワーク構築を支援することを目的に、平成25年7月「北九州学術研究都市冠留学生奨学金制度」を創設した。地域企業を中心に広く募集したところ、市内の中小企業1社、ベンチャー企業1社の冠奨学金が具体化した。

また、留学生と企業との交流の場として企業見学会を開催（4回）した。

*参加企業数：18社、参加留学生数：延べ75名

○ 留学生就職支援プログラム

学研都市の3大学（北九大、九工大、早稲田大）で日本企業に就職を希望する修士留学生を対象に、ビジネス日本語講座、日本ビジネス講座、就職セミナー等の就職支援プログラムを実施した。

*受講生 24名（北九大2名、九工大1名、早稲田大21名）

*日本ビジネス講座、就活セミナーはプログラム受講生以外の留学生も参加

*参 考 平成24年度プログラム受講生17名の就職先

アイシン精機(株)、ソフトバンク(株)、ジャトコ(株)、コニカミノルタ(株)、(株)リコー、キヤノン(株)、日産自動車(株)、(株)日立製作所、(株)日立システムズ、古川インフォメーション・テクノロジー(株)、(株)トヨタプロダクションエンジニアリング、(株)牧野技術サービス 等

○ 語学教育センター運営事業

学研都市の留学生、進出企業・研究機関の研究者等を対象として、日本語講座、漢字講座、英会話講座を実施した。また、平成25年度秋期から習熟度別少人数指導方式日本語クラスを新設した。

講座名	開講期間	授業回数	受講生数
日本語（初級～上級7コース）	4月～8月	32回	71名
	10月～1月	32回	119名
公文式日本語	10月～2月	16回	20名
漢字	4月～7月	16回	18名
	10月～1月	16回	14名
英会話（初級・中級2コース）	4月～7月	16回	24名
	10月～2月	16回	21名
合 計		144回	287名

○ 奨学金の給付

優秀な留学生の集積を図るため、奨学金（年間60万円／人、秋期入学は30万円）を給付した。

*給付額：17,100千円（給付人数：47名）

○ 住宅費助成金交付事業

教育研究活動に専念するための生活支援として、各大学が提供する宿舍等に入居することができず、民間の賃貸住宅等に入居する留学生を対象として、家賃等の助成を行った。

*助成額：2,784千円（助成人数：54名）

○ 留学生交流事業補助

学研都市の留学生と地域住民との交流事業などを支援するため、NPO法人が運営する事業に対して助成を行った。

*助成額：700千円

○ 留学生同窓会

学研都市の大学を卒業した留学生と在校生、大学教職員、留学生支援事業関係者の旧交を温めるとともに、留学生のネットワークを作ることを目的として「第2回北九州学術研究都市留学生同窓会」を11月23日に開催した。

*参加者：109名（内訳：卒業生13名、在校生50名、その他46名）

(3) 研究基盤整備推進事業

○ 海外大学等との連携プロジェクト促進事業

① 海外連携プロジェクト助成金

学研都市内に研究拠点を設けた海外大学に対し、共同研究を行う大学に対して助成するとともに、拠点の設置・維持に係る経費の一部助成を行った。

【共同研究】

- ・ 清華大学（中国）と早稲田大学とのマルチコアプロセッサとマルチメディア処理に関する共同研究
- ・ 上海交通大学（中国）と早稲田大学との環境情報処理技術に関する共同研究
- ・ 北京大学（中国）と早稲田大学との超高速人物検索技術およびセキュリティ応用に関する共同研究

【拠点の設置】

- ・ フィレンツェ大学国際プラントニューロバイオロジー研究所 北九州研究室など2件

② 海外サイエンスパーク等との交流調査事業

4月の台湾中部科学工業園区10周年記念式典への出席、10月の「産学連携フェア」に台湾の3科学工業園区（新竹・南部・中部）からの代表団を招いて「PVリサイクルシステムの実証プラント、北九州スマートコミュニティエリア視察」の実施など、海外サイエンスパークとの交流を図った。

(4) 学研都市人材育成事業

○ カーエレクトロニクス拠点推進事業(人材育成関連)

学研都市3大学による連携大学院「カーエレクトロニクスコース」(平成21年4月に開設)、「インテリジェントカー・ロボティクスコース」(平成25年4月に開設)の運営を支援し、学研都市3大学及び関係企業と連携しながら実践的な高度人材の育成を行った(平成25年度コース修了生:カーエレコース27名、カーロボコース39名)。

また、研究インターンシップ(実践的派遣教育)やオフサイトミーティング(企業と学生の意見交換会)など独自の支援プログラムを実施した。

① 研究インターンシップ

より実践力を備えた産業人材を育成するため、学生を企業の研究開発部門などへ派遣するインターンシップのコーディネートや、派遣に伴う旅費等についての助成金制度(実践的派遣教育事業助成金)により、インターンシップの実施を促進した。

* 助成金採択者数: 2名

② オフサイトミーティング

カーエレクトロニクス関連企業のエンジニア・人事担当者を招聘し、気軽な雰囲気でのディスカッションを行うことにより、職業観の醸成や今後の就職活動のきっかけ作りを目的としてオフサイトミーティングを実施した。

* 参加企業数: 14社、参加学生数: 延べ 311名

③ 社会人の人材育成（北九州・次世代自動車勉強会）

地場企業への情報提供・啓発・参入支援としてセミナー・講座を開催した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
自動車産業新規参入・取引拡大セミナー ①高機能部品の開発と新たなビジネスモデルの提案 ②次世代自動車と中小サプライヤーの生き残り戦略	2月7日	64名
燃料電池自動車（FCV）セミナー ①FCVに関する九州大学の取り組み ②水素社会の到来を産業創造に繋げる視点	3月5日	55名

○ 自動車に関する教育拠点の整備

技術開発交流センター内の自動車に関する教育拠点（EV部品展示室）の充実を図るため、EV車の主要構成部品をより分かりやすく展示した。

*見学者数 65件、611人

○ ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業

① 平成24年度に引き続き「ひびきの高度ものづくり実践人材育成事業」の運営を行い、学生主体のものづくりプロジェクト「ひびきのハイテクチャレンジ」を公募、助成した。

【採択プロジェクト】

プロジェクト名	参加者数
RoboCup サッカー新型機の機能向上に向けたモジュールの開発	7名
室内環境向け自律ロボットの人間との親和性向上と競技会参加へ向けた開発	8名
学生フォーミュラ車両製作を通じた高度な人材育成	11名
設備機器に頼らず冷暖房を行う住宅用パッシブシステムの開発	39名
水中ロボット競技会用水中ロボットの開発	11名
運動競技場用ライン引きロボットの開発	14名
合計	90名

② 学生が主体的に取り組む開発プロジェクトを支援するため、大学や企業等と連携し、実践的な内容を中心とした講習会の実施やものづくり活動のフィールド提供などを行った。

【人材育成や研究開発に関する講習会・セミナー・情報発信の企画開催等】

内容	開催日	参加者数
プロジェクトマネジメント講習会	7月10日	6名
安全講習会&北九州マイスター講習会（KIGS）	8月28日	11名

産業用マイコン・カー製作	9月2日、3日	16名
産業用マイコン・カープログラム編	9月9日、10日	16名
合 計		49名

○ 半導体人材育成事業

優れた半導体技術者を育成する取り組みとして、半導体技術者が必要とする関連技術の習得を目的とした講座「ひびきの半導体アカデミー」を12講座実施した。

ひびきの祭における小学生向けの工作教室では、一般市民向けの低炭素化に向けた啓発教育を付加した「LED工作教室～家族で省エネ大作戦～」を実施。LED照明の省エネ効果をアピールすると共に、LEDを使った簡単な電子工作を行った。

講 座 名	開催日	受講者数
熱設計基礎講座～熱設計の基礎とLEDの熱設計～	6月26日	51名
マネジメント能力向上講座	7月19日	15名
LED 素子	8月23日	19名
LED 交流駆動技術	8月28日	19名
ひびきのサロン合同企画 ワイヤレスソリューションセミナー ～ソリューション開発と最新動向、及びアプリケーション 事例&デモ～	8月28日	87名
半導体の信頼性	10月3日	8名
LED 工作教室	11月9日	107名
光学技術セミナー	11月28日	9名
半導体の故障解析	12月5日	20名
「技術者のためのMBA！」 北九州市立大学ビジネススクール説明会	12月11日	17名
LED 照明製品開発の品質向上セミナー	1月29日	26名
福岡システム LSI カレッジ北九州開催 (鉛フリーはんだ接合部の信頼性評価手法)	3月17日、18日	26名
合 計		404名

2 技術開発支援による新事業の創出・技術の高度化

(1) グリーンイノベーション・ライフイノベーションの推進

○ 先導的低炭素化技術研究拠点形成事業

低炭素化技術開発拠点形成に向けて、平成23年1月に策定された「先導的低炭素化技術研究戦略指針」に基づき、研究開発プロジェクトを支援した。

① 低炭素化技術拠点形成事業補助金（助成金）

北九州市が促進する低炭素社会の構築を図るため、事業化を目指した実証・研究開発プロジェクトを支援した。

・ 低炭素化技術探索検証事業

本格的な研究開発に取り組む前段階の技術的内容・市場性・経済性についての調査・研究開発に対して助成

＊150万円以内／年（単年度助成）

・ 低炭素化技術研究開発事業

「先導的低炭素化技術研究戦略指針」に掲げる対象分野に係る技術で、基礎研究を終了し、将来的(2～3年後)な実証化・事業化を目指した研究開発や小規模実証研究に対して助成

＊700万円以内／年（最長2年度）

・ ミニ実証事業

小規模実証により、実効性を検証するプロジェクトに対し実証研究費を助成

＊1,000万円以内／年（最長2年度）

【低炭素化技術探索検証事業】 2件

採択テーマ名	代表研究機関
PVリサイクル輸送容器開発	山九(株)
低環境負荷型太陽光モジュール洗浄剤を用いたパネルメンテナンスに関する調査研究	シャボン玉石けん(株)

【低炭素化技術研究開発事業】 5件

採択テーマ名	代表研究機関
新規CMPパッド＋スラリーによる高研磨効率の実現と実用化	三島光産(株)
様々な事業場から排出された有機性の産業廃棄物を活用したカーボンニュートラルなバイオガス発電による売電事業化	(株)サニックス
相反転方式水車による小水力発電と電力利用システムの技術研究開発	(株)協和コンサルタンツ
炭素を生体固定しCO ₂ 排出を抑制することを目的とした「昆虫生体機能」と「工業生産技術」を融合した小型プラントによる昆虫タンパク質の効率的な製造システムの開発	(株)イーズ バイオ技術研究所
高輝度・高効率かつ低コストな白色LEDの実現のための樹脂材料ならびにその塗布技術の開発検証実験	三菱化学(株)

【ミニ実証事業】 2件

採択テーマ名	代表研究機関
ヒ素や鉛といった重金属に汚染された水を飲用可能とする新たな水処理技術の活用により、とりわけアジア地域での安定的な水資源の確保を実現するセントラル浄水システムの実証試験【継続】	(株)タカギ
住宅建物への基礎杭を用いた地中熱ヒートポンプシステム導入の実証研究【継続】	新日本ホームズ(株)

○ 低炭素化技術基盤形成事業

北九州市が促進する低炭素社会の構築を図るため、低炭素化技術の技術基盤調査を行う研究開発プロジェクトに対して、助成を行った。

- ・ 低炭素半導体・エレクトロニクス技術基盤調査事業

将来的に関連技術を実際の社会システムの中で実証し、問題点及び課題の抽出・改善を予定するもので、そのための実現可能性の技術基盤調査に対して助成

* 150万円以内/年 (単年度助成)

【低炭素半導体・エレクトロニクス技術基盤調査事業】 3件

採択テーマ名	代表研究機関
高輝度多色調色モジュールの事業化の調査	(株)STEQ
小型高輝度LED投光器の開発	イーアイエス(株)
超高輝度LEDモジュールの研究開発	佐賀エレクトロニクス(株)

○ 【新規】地域企業の環境・医療等成長産業分野への新規参入支援事業

北九州市内ものづくり企業の成長分野への新規参入を促進するため風力発電システムに注目し、風力発電システムの構成機器に関する調査や地域企業参入の可能性に関する調査を行うとともに、セミナーを開催して風力発電の技術開発や市場動向に関する情報提供を行った。また、市内のものづくり企業が環境や医療等の成長分野への新規参入のために用いるサンプルの製作や展示会出展を支援した。

テーマ・講座名	開催日	参加者数
風力発電の技術開発・市場動向及び地域企業の参入可能性	3月14日	130名

- ・ 成長分野新規参入支援事業（助成金）

環境、医療介護分野等の成長分野への新規参入のために用いるサンプル製作費用や展示会へのサンプル出展等に必要な経費を助成

採択テーマ名	申請機関
医療用薬液供給システム内に使用される「フッ素樹脂製多連形状配管部品」	(株)陽和
クローバ回路用短時間抵抗器	(株)ニシテイ
mruby 組込教育基板「enzi」をベースに省部品・小型化し、高機能かつ開発効率が高いエンタープライズ向けmruby小型基板「enzi pro mini」	Manycolors(株)
従来品よりも25%製造コストを低減したHV・EV向け電源コネクタ	(株)戸畑ターレット研究所
スパイラルエルボ	大久保設備工業(株)

○ 医療・介護分野参入に向けた技術高度化促進事業

市内の企業または大学等が行う医療・保健・介護分野の製品開発の取り組みを支援した。

- ・ 医療・保健・介護分野製品開発事業（助成金）

市内の企業、大学等が、医療・保健・介護現場で抱える課題を解決するために、保有技術を生かし、実用化に向けて行う機器等の製品開発に対する助成

＊250万円以内/年（単年度助成）

採択テーマ名	申請機関
医療用マイクロニードルの実用化開発	三島光産(株)
歩行補助装具システムの性能評価・検証、および改良開発	産業医科大学
エナメルマトリックスタンプを用いた新規歯周病診断システムの開発	九州歯科大学
肺がん検診の3次元読影支援診断システムの開発	吉川工業(株)

(2) 産学連携推進事業

○ 産学連携基盤形成事業(研究者情報冊子の作成等)

学研都市の研究者情報等の研究シーズを内外に積極的に発信するとともに、最新の技術動向の収集や国その他関係機関とのネットワーク強化を通じて、産学連携の基盤づくりを進めた。

① 「北九州学術研究都市の研究者情報」冊子等の作成

学研都市のポテンシャルを広くPRするため、様々な媒体により、研究者の情報（5機関、180名）のPRを行った。

- ・ 「研究者情報」の改訂

冊子1,500部、 概要版（日本語）5,000部、（英語）1,000部

- ・ 研究者情報データベースの改修

研究者へのインタビュー記事を掲載した「研究室最前線」コンテンツの新設

② 産学連携を効果的に推進するための情報収集・発信

情報発信機能のPRとネットワーク拡大を目的に、メールマガジン「産学連携センター News」を約7,000人に63回配信し、国等の公募事業や産学連携イベント情報、北九州TLOの保有シーズなどタイムリーな情報提供を行った。

○ 産学交流促進事業(産学交流サロン、第13回産学連携フェア等)

① 産学交流サロン

学研都市において産学連携の動きが次々と生まれる環境づくりを目的に、特定の技術テーマについて、産学官で自由にディスカッションする「産学交流サロン」(9回開催、延べ約1,100名参加)を開催した。

回	テーマ・講座名	開催日	参加者数
第120回	連携大学院インテリジェントカー・ロボティクス コース開講記念セミナー ～北部九州における研究開発の動向～	6月26日	175名
第121回	国の新たな経済政策下における地元中小企業の 今後	7月24日	75名
第122回	ワイヤレスソリューションセミナー ～ソリューション開発と最新動向、及びアプリケ ーション事例&デモ～	8月23日	87名
第123回	「Brain Imaging Science (ブレイン イメージング サイエンス)」	10月21日	62名
第124回	<新技術説明会>第1部「医療・福祉分野」第2 部「環境分野」～地元企業に使ってもらいたい医 療・福祉、環境関連技術～	10月24日	313名
第125回	～女子高校生・女子大学生のための理系女子キャ リアアップシンポジウム～ 「地域で育もう、輝く女性研究者・女性技術者た ち」	11月10日	77名
第126回	ここまで来たLEDアプリケーション新応用分野 第6弾 ～最前線研究開発情報と面白い応用分野紹介～	2月6日	72名
第127回	労働支援に向けた装着型パワーアシストロボッ トの最前線	2月28日	80名
第128回	風力発電の技術開発・市場動向及び地域企業の参 入可能性	3月14日	112名

② 産学連携フェア

地域の大学(研究機関)・企業等の研究シーズや先端科学技術の研究開発状況を広く情報発信するとともに、「産」と「学」の出会いの場を提供する「第13回産学連携フェア」を3日間開催し、延べ約7,900名が参加した。

フェアでは、基調講演（日本の鉄鋼業と環境・エネルギー政策）、セミナーや展示会を開催し、企業商談等98件（技術相談27件、商談16件、共同研究55件）の成果を上げた。

- *日程 : 10月23日～25日
- 場所 : 北九州学術研究都市
- テーマ : 知と技術の融合
- 基調講演 : 新日鐵住金株式会社 常務執行役員 八幡製鐵所長 谷本 進治 氏
- セミナー : 31件開催
- 展示会 : 46機関・団体が出展

③ 展示会出展

学研都市における産学連携活動を広くPRするため、「エコテクノ2013」等の産学関連イベントにPRブースの出展を行った。

展示会等	開催日
エコテクノ2013（西日本総合展示場）	10月16日～18日
YMFG ビジネスマッチングフェア（西日本総合展示場）	2月20日

○ 産学官連携研究開発推進事業助成金

① 産学連携研究開発事業（大学等研究機関向け助成金）

市内大学等研究機関における研究シーズを、事業化に向けて具体的な産学共同研究へと繋げ、競争力のある新技術・新製品の開発や地域産業の高度化を推進することを目的とした研究開発への一貫した支援を行った。

- ・ シーズ探索助成金

具体的な産学共同研究への応用可能性のある研究課題解決に向け、その解決方法の可能性・適正等を調査・検討していく段階に対する助成

*100万円以内/年（単年度助成）

- ・ 産学事業化促進助成金

具体的な産学共同研究への応用可能性のある研究課題解決に向け、研究シーズの段階から、より具体的な産学共同研究へと高めていく段階に対する助成

*500万円以内/年（最長2年度）

【シーズ探索助成金】9件

採択テーマ名	代表研究機関
医療分野向け薬剤供給微細ノズルを想定した小径管内複合研磨技術の開発	福岡県工業技術センター 機械電子研究所
歯周病と心筋梗塞の因果関係を分子レベルで解析するための新たな機器の開発	九州歯科大学
生体信号から評価した植物芳香成分によるリラックスおよび安眠効果	産業医科大学

高齢者用電気自動車自動運転のためのコンパクト周囲認識システム	早稲田大学
自動車用部品に対するレーザ表面改質法の適用に関する検討	九州工業大学
マイクロバリスタ（μバリスタ）を用いたサージ抑制器の開発研究	九州工業大学
高性能なナチュラルユーザインタフェースを簡便かつ安価に実現する組み込みシステム向け開発環境構築	九州工業大学
ナノアルミナ被覆による導電性材料の電気絶縁化に関する応用調査	九州工業大学
新型インフルエンザ等の迅速検出を目指した電気化学的遺伝子検出試薬の開発	九州工業大学

【産学事業化促進助成金】 3件

採択テーマ名	代表研究機関
肺癌を標的とした多糖核酸複合体を用いた分子標的 siRNA薬の開発【継続】	北九州市立大学
パワーデバイス用高信頼化評価技術：リアルタイム故障モニタリングシステム【継続】	九州工業大学
半導体微細加工技術を利用した細胞解析デバイスの開発【継続】	九州工業大学

② 中小企業産学官連携研究開発事業（中小企業向け助成金）

市内中小企業の技術や製品の高度化を推進するため、市内中小企業が大学等と行う優れた新技術・新製品の研究開発を支援した。

- ・市内の中小企業が行う、補助終了後3年程度以内の実用化の見込みのある新技術や新製品開発に対する助成

* 700万円以内/年（最長2年度）

採択テーマ名	申請企業 （他の参画企業）	参画大学等
加工カモニター機能を有するインテリジェント微細タップ加工装置の開発	(株)タック技研工業	北九州市立大学、 福岡県工業技術センター 機械電子研究所
3Dプリンタ技術を活用した熱効率に優れたセルフリジェネバーナの開発	熱産ヒート(株)	九州共立大学、 福岡工業大学
3次元自動FW成形装置を用いた繊維強化プラスチック製品の開発	丸栄化工(株)	北九州工業高等専門学校、 九州工業大学
画像処理技術を用いたスマートフォン向け魚種同定システムの開発	(株)ケイエス企画	九州工業大学
水素系ガスを用いた低環境負荷溶射技術の開発【継続】	富士岐工産(株)	九州大学、 福岡県工業技術センター 機械電子研究所

認知心理学と情報工学を融合したインタフェースデザインと個人適応技術を用いた歩行訓練支援システムの開発【継続】	リーフ(株)	九州工業大学
--	--------	--------

○ 新産業創出支援事業

具体的なプロジェクトの創出や事業化への方向性を検討するため、市内企業の3次元技術活用についての実態調査・分析、生産性意識の見える化システム構築のための企画・調査・分析を行うとともに、個別分野の研究開発プロジェクトを検討する研究会を実施した。

また、国プロ終了案件について、補完研究の実施にあたり必要となる調査・研究を実施した。

研究会名	参画機関
CFRP加工技術研究会	大学等3機関、企業9社、公的機関1機関
泥炭火災抑制技術研究会	大学等3機関、企業3社、公的機関6機関
北九州地中熱・ヒートポンプシステム利用研究会	大学等2機関、企業5社、公的機関1機関
北九州医歯工連携研究会	大学等6機関（企業は自由参加制）

(3) 国等研究開発プロジェクト受託事業

国等からの研究開発資金を活用した産学共同研究プロジェクトを運営実施した。

平成25年度は、前年度からの継続の7事業を含め、10事業に取り組み、（このうち8事業については、平成26年度以降も継続実施）、市内外の24企業と共同プロジェクトを進め、新技術・新製品の開発を行った。

プロジェクト名	事業期間	参画大学	公的研究機関	参画企業数
高機能竹繊維を使った低炭素型軽量化プラスチックコンポジットの開発	23年度～25年度	—	—	2
地滑り・公共インフラ老朽化監視用低コスト・多機能・高精度計測システムの研究開発	24年度～26年度	早稲田大学	—	4
エネルギー社会に対応した高機能パワーデバイスの高信頼性を確保する超小型電流センサ及び製造ライン向け検査装置の開発	24年度～26年度	九州工業大学	1	3
非常用電源としてのマグネシウム空気電池を実現する難燃性マグネシウム合金鋳造薄板による革新的電極素材の開発	25年度～27年度	—	1	4
熔融亜鉛めっきの代替が可能な複合酸化物を活用した高強度防錆塗料と工法の開発	25年度～27年度	九州工業大学、九州大学	—	2
全身疾患予防につなげる定量的歯周病総合診断実現のための多項目検査システムの開発	23年度～25年度	九州工業大学、九州歯科大学	—	3

広域対象のPVシステム汎用リサイクル処理手法に関する研究開発	22年度～26年度	北九州市立大学	1	2
新バイオディーゼルの合成法の開発	22年度～26年度	北九州市立大学、 日本工業大学 他	—	—
インドネシア・バリクパパン市における泥炭・森林火災の消火技術モデル事業	25年度～27年度	北九州市立大学	—	4
微細加工プラットフォーム事業	24年度～33年度	—	—	—
合 計			3	24

(4) 地域イノベーション戦略支援プログラム

福岡県、北九州市、福岡市、(財)福岡県産業・科学技術振興財団と連携し、これまで知的クラスター創成事業等で創出した研究成果の事業化や、「高度情報化社会」「低炭素社会」「健康・長寿社会」等、次世代の社会システムに必要な技術・製品の創出に取り組んだ。

【研究テーマ】

研究テーマ名	研究代表者
有事対応型情報プラットフォームの開発	九州大学 安浦寛人教授
複合型社会情報基盤システムの信頼性・安全性保証技術の研究開発	九州大学 福田晃教授
高性能無線バックホール	九州大学 古川浩教授
次世代窒化ガリウムパワー半導体による革新的ワイヤレス・エネルギー供給技術開発と照明への応用	九州工業大学 大村一郎教授
MEMS を利用した細胞解析デバイスの開発	九州工業大学 安田隆教授
超低電力アナログLSIの高信頼設計技術に関する研究	北九州市立大学 中武繁寿教授
新規高輝度LED利用による省エネルギー・超高集約型植物栽培システムの開発	北九州市立大学 河野智謙准教授
高機能・高信頼性モジュールのための高付加価値インターポーザに関する研究	福岡大学 友景肇教授
3次元LSIによる画像処理チップの研究	早稲田大学 後藤敏教授
次世代画像符号化(HEVC)の低消費電力化の研究	早稲田大学 後藤敏教授
CPS構築に向けたSSSOC利活用技術の開発	(公財)九州先端科学技術研究所 村上和彰副所長

(5) 北九州技術移転機関(北九州TLO)運営事業

大学等で生み出された研究成果を特許化し、ライセンス契約等により企業へ技術移転を図った。

平成25年度実績(24年度実績)		平成25年度末現在	
特許出願件数	1件(10件)	累積特許出願件数	430件
技術移転成約件数	6件(14件)	累積技術移転成約件数	207件

* 知的クラスター創成事業の成果でF A I Sが特許出願した件数を含む。

(6) 半導体技術推進事業

○ 半導体産業創出事業

ベンチャー企業のニーズなどを踏まえ、アナログ回路設計ツールや評価機器の整備を行い、充実した半導体設計環境・評価環境づくりを進めた。

【半導体設計環境及び、評価・解析環境の提供】

種別	ツール名・機器名
レイアウト検証	Calibre
回路シュミレーター	Virtuoso Spectre Circuit Simulation
回路図エディター	Virtuoso Schematic Composer
レイアウトエディター	Virtuoso Layout Editor
フルフロー設計	HiPer Silicon
その他	環境整備(端末設定・機器・部品等)

* 延べ利用者数813人

○ 新アプリケーション創出事業

平成23年2月に発足した「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」は、LEDを用いた新アプリケーション産業の創出等を目的に活動を行っている。

平成26年2月、「第4回ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」「第126回産学交流サロン」を同日開催し、協議会の成果事例等を発表した(参加者数:148名)。

協議会の活動状況や研究成果を市内外に幅広く情報発信するため、東京ビッグサイトで開催されたLED NEXT STAGE2014を始めとする計5件の展示会への出展を行った。また、全国工場夜景サミット in 北九州(11月23日)の開催に合わせて、(株)春日工作所・イーアイエス(株)製の高輝度LED照明を用いて、若戸大橋ライトアップ実証実験(11月18日~翌年3月31日)を行い、ひびきの発の新商材をPRした。

【研究会活動】

研究会名	参画機関
ひびきのLEDアプリケーション創出協議会	会員数126名、企業40社、公的機関等22団体
高輝度LED照明研究会	大学4機関、企業8社、公的機関1機関

【ひびきのLEDアプリケーション創出協議会 登録研究グループ】

研究グループ名	参画機関
高効率LEDデジタル電源制御技術の研究	早稲田大学、(株)イーシーエス、新日本無線(株)
無線ネットワークを用いた室内照明節電制御システムの研究	早稲田大学、博通テクノロジー(株)、東芝ライテック(株)
LED植物工場（食料生産）研究会	北九州市立大学、(株) i T e s t、宮崎大学、弘前大学、九州沖縄農業研究センター、ボン大学（独）、フィレンツェ大学（伊）、パリ第7大学（仏）、新日鉄ソリューションズ(株)
LED安全・防災応用研究会	北九州市立大学、国立環境研究所、北九州市消防局、(株)エコジェノミクス、(株) i T e s t、(株)インフォグラム、(株)キットヒット
LED鮮度保持照明研究会	北九州市立大学、クランフィールド大学、東北大学、(株) i T e s t
LED街路灯実証実験	北九州工業高等専門学校、(株)東芝、東芝ライテック(株)
LED駆動回路の研究	北九州工業高等専門学校
LEDスペクトル照射による化学物質の分解システム	熊本県立大学、(有)ニシカン、(有)球磨衛生設備管理会社、(有)松岡清掃公社、(有)三角環境、(株)セイブクリーン
高輝度LEDを駆使した魚類の電気生理学的応答の解明と工学的応用	北九州市立大学
LEDアプリ製品のための低コスト高放熱パッケージの研究	(株)STEQ
インテリジェントLED照明の研究	(株)STEQ
LEDによるCO2吸収システム	北九州市立大学、フィレンツェ大学（伊）、(株)パートナー
電源一体型小型・軽量LED水中灯研究会	福電資材(株)、鹿児島大学大学院

船舶法定船灯LED化への調査研究	(株)マリンテック、 (地独)山口県産業技術センター、 KEN工房、(株)豊光社、 福岡県工業技術センター、 (財)福岡県産業・科学技術振興財団、 (株)エコス
高輝度消防用LED照明開発	北九州市立大学、(株)豊光社、鹿児島大学、 (株)アイ・エス・ディ
農業システム実証研究会	北九州市立大学、(株)九州スーパーハウス、 (株)イーシーエス
LED紫外線照射によるマゴット抗菌物質発現研究	(株)イーズ、九州工業大学、新日本無線(株)、 佐島電機(株)
道路等高輝度特殊照明研究会	イーアイエス(株)、九州工業大学、 北九州市立大学、(株)春日工作所
大出力LED照明研究会	(株)マクニカクラビスカンパニー
分子接合技術によるLED照明高放熱基盤の開発	(株)豊光社、(株)いおう化学研究所、 北九州市立大学、 (一財)ファジィシステム研究所

【展示会出展等】

展示会等	開催日
S I I Q 総会交流会 (ハイアットリージェンシー福岡)	6月18日
産学連携フェア (北九州学術研究都市)	10月23日～25日
セミコンJAPAN2013 (幕張メッセ)	12月4日～6日
LED NEXT STAGE 2014 (東京ビッグサイト)	3月4日～7日
ジャパンインターナショナルボートショー2014 (パシフィコ横浜)	3月6日～9日

(7) カーエレクトロニクス拠点推進事業

○ 研究開発支援事業

① 研究開発支援

学研都市を中心とした大学における研究シーズを具体的な産学共同研究へとつなげる取組みを実施した。自動車関連企業からのニーズが強く、実効性の高い研究テーマについて「FAIS産学連携研究開発事業助成金制度」を活用し、2件の共同研究を支援した。

《産学連携研究開発推進事業助成金のうちカーエレクトロニクス分野にかかるもの（再掲）》

【シーズ探索助成金】

採択テーマ名	代表研究機関
高齢者用電気自動車自動運転のためのコンパクト周囲認識システム	早稲田大学
ナノアルミナ被覆による導電性材料の電気絶縁化に関する応用調査	九州工業大学

② 研究会活動

自動車メーカー、地域企業、研究者等による6つの研究会活動を実施した。各研究会では、最適なソリューションを絞り込むために、課題解決のための議論や、特許調査・市場分析を行った。

研究会名	参画機関
電力変換研究会	九州工業大学、九州大学、崇城大学、西日本工業大学、大分大学、鹿児島大学、山口大学、(株)安川電機
車載半導体研究会	九州工業大学、九州大学、熊本大学、(株)デンソー、新日本無線(株)、富士電機(株)
九州・ひびきの自律走行研究会	早稲田大学、九州大学、(株)デンソー、アイシン精機(株)
高温実装・材料技術検討会	早稲田大学、九州工業大学、トヨタ自動車(株)、(株)デンソー、新日本製鐵(株) 等
エネルギーハーベスティング研究会	九州工業大学、新日本無線(株)、(株)ECS、吉川工業(株)
パーティクルフィルタのリアルタイム状態推定と安全運転支援研究会	九州工業大学、早稲田大学、千葉大学、トヨタテクニカルディベロップメント(株)

③ ニーズ・シーズマッチング

学研都市を中心とする地域の大学研究者と、大手自動車産業技術者とのニーズ・シーズのマッチングを図り、産学連携や共同研究に向けたきっかけづくりに取り組んだ。

実施日	企業側	大学研究者
4月9日	TTDC 2名	九工大 1名
4月9日	新日本無線(株) 2名	九大 1名
4月11日	(株)デンソー 4名	早稲田 3名

5月10日	(株)デンソー3名	早稲田1名
12月9日	(株)デンソー2名	早稲田2名、九工大1名、北九大1名
2月5日	トヨタ自動車(株)1名	早稲田1名
2月7日	(株)デンソー2名	早稲田1名
2月20日	トヨタ自動車(株)1名	早稲田1名
3月7日	TTDC4名	九工大2名
3月14日	富士電機(株)2名	早稲田1名

④ セミナーの開催（再掲）

テーマ・講座名	開催日	参加者数
ひびきのサロン 連携大学院インテリジェントカー・ロボティクスコース開講記念 ～北部九州における研究開発の動向～	6月26日	175名

○ カー・エレクトロニクスセンター運営事業

北九州市のカーエレクトロニクス事業の取り組みを広く発信するため、「ITS世界会議2013」への出展など積極的にPRを行った。

また、自動車関連企業や車載用電装品製造企業などを積極的に学研都市に招くとともに、各行政機関や海外調査団等約65件の視察団を受け入れた。

【展示会への出展】

展示会等	開催日
ITS 世界会議2013（東京ビッグサイト）	10月14日～10月18日
産学連携フェア（北九州学術研究都市）	10月23日～10月25日
組込み技術展（パシフィコ横浜）	11月20日～11月22日

(8) ロボット開発支援推進事業

○ 「北九州ロボットフォーラム」(研究会)の運営

会員数182名・機関（平成25年度新規加入13名・機関）（発足時45名・機関）

・ 総会・セミナーの開催

平成25年	6月12日	平成25年度総会	(参加者数： 26名)
平成25年	6月12日	定期総会記念講演	(参加者数：126名)
平成25年	10月25日	産学連携フェアセミナー	(参加者数： 59名)
平成26年	2月28日	ひびきのサロン	(参加者数： 80名)

- ・ 情報発信・交流の促進

【展示会の開催】

平成25年6月12日～14日 ロボット産業マッチングフェア北九州2013

出展社数：17社・機関、18小間

【展示会への出展】

展示会等	開催日
産学連携フェア（北九州学術研究都市）	10月23日～25日
2013 国際ロボット展（東京ビッグサイト）	11月6日～9日

【その他】

ホームページ管理運営、リーフレット英語版・ニュースレター（22号～24号）作成

○ 市内発ロボット創生事業

技術シーズや市場ニーズから、ロボット試作プロジェクト（研究会）を企画し、北九州ロボットフォーラム会員を対象にプロジェクト参加メンバーを公募、試作品の開発委託を行った。

（1件）

【助成プロジェクト】

項目	内容	参画機関
北九州発！中小企業向け製造ロボット（Kロボット）開発のためのニーズ調査と仕様策定	<ul style="list-style-type: none"> ・新しいロボット（Kロボット）のアプリケーション調査を実施 ・Kロボットのコンセプト及び仕様を策定 ・様々な形状の部品に対応しハンドリング可能なユニバーサルグリッパの試作と性能評価を実施 	前田機工(株)、アキツ・デザイン、北九州市立大学、九州工業大学

○ 研究開発プロジェクトで得られた新技術・新製品の実証化・事業化コーディネート

項目	内容	参画機関
静脈血栓症予防のための小型下肢運動補助ロボットの開発(研究会)	北九州市立八幡病院で実証テストを行い、実用化へ向けた課題出し	Roboplus ひびきの(株)、九州工業大学、北九州市立八幡病院
海洋活動技術開発プロジェクト勉強会(研究会)	海洋ロボット技術や環境配慮防災技術シーズを海洋活動に係るサバイバルトレーニングや海洋防災へ応用し、今後の研修プログラムの開発や海洋ロボットの開発へ発展	北九州市立大学、九州職業能力開発大学校、東海大学、日水マリン工業(株)
ハイブリット型飛行観測システム開発プロジェクト(研究会)	北九州工業高等専門学校を中心に、高高度の強風域でも安定した姿勢が保てる構造を実現するための構造設計および性能評価を実施(H23年度市内発ロボット創生事業開発案件のフォローアップ)	北九州工業高等専門学校、ふるさとカンパニー(株)、北九州市立大学、九州職業能力開発大学校、九州工業大学

下肢患者・障害者のための住宅用歩行訓練ロボット開発プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 在宅での使用に合わせた機能の見直しと小型・軽量化 産業医科大学で動作検証を行い、実用化への課題抽出 (H24、H25年度ロボット産業振興会議補助金事業開発案件のフォローアップ)	九州産業大学、ロボフューチャー(株)、総合せき損センター、(株)有菌製作所
九州地域コミュニティロボット共創活動調査	高齢者問題(買い物弱者、見守り)におけるロボットテクノロジー導入の可能性調査研究(千葉工業大学からの委託事業、H24~25)	九州大学、千葉工業大学、北九州市立大学、福岡工業大学、(株)安川電機、(株)ロジカルプロダクト
医療用使用済薬剤自動識別ロボット開発(研究会)	使用済み薬剤瓶の識別と回収システムの実用化への取り組みとして、3次元検出システムの開発を推進(H24年度市内発ロボット創生事業開発案件のフォローアップ)	北九州工業高等専門学校、オオクマ電子(株)、おんが病院
空港内手荷物カートの低コストロボット化技術の開発(研究会)	空港用カート(取り付け型電動化ユニット)の実用化へ向け、センサ信号の安定化、駆動部の小型化、自己位置検出システムの見直しを進め、北九州空港での実証テストを実施(H24年度市内発ロボット創生事業開発案件のフォローアップ)	九州工業大学、(有)ICS SAKABE、サンハツオートメイション(株)
船舶の燃費向上を目的とした船底清掃水中ロボットの实用化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> 旧型機の問題点への対策と機能評価を実施 並行して新型機を製作 (H25年度ロボット産業振興会議補助金事業開発案件)	九州工業大学、水産大学校、RoboPlus ひびきの(株)

○【新規】産業用ロボット導入支援事業

ロボット技術を活用した地域企業のものづくり力強化と生産性向上を支援するため平成25年10月に「産業用ロボット導入支援センター」を開設した。個々の生産現場に対応したロボットシステムの試作・開発の支援等により、地域企業のロボット導入を促進するとともに、ロボットの操作体験ができ、ロボットを活用した生産システムを学べる“ロボット道場”を運営した。

【人材育成や研究開発に関する講習会・セミナー等】

内 容	開催日・回数	参加者数
ロボット道場	11月~3月(計4回)	10名
システムインテグレータ講習	2月14日	17名
ロボット産業マッチングフェア	6月14日	50名
社会ロボット具現化センターワークショップ	7月19日	50名
産業用ロボット導入支援センター開所記念セミナー	10月25日	70名

【助成プロジェクト】

項目	内容	参画機関
外観検査用ビジョンシステムの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット導入の周辺技術として、低コスト化検査ビジョンシステムの実用可能性評価に取り組む ・画像処理機能を組み込んだ小型・低価格カメラ（約5万円）と小型コンベアによる検査システムを構築し、検査性能を評価 	九州工業大学、 (有)ICS SAKABE
マルチハンドの開発	<ul style="list-style-type: none"> ・どのようなワーク形状でも段取り替えをせず、ハンドリング可能なマルチハンドを開発 ・実用可能性評価として、ハンド内容物の粒径と把持可能なワーク形状の関係を調査 ・ワークへの押し付け力を検出し把持状況を確認する力検出機構の組み込み 	九州工業大学、 前田機工(株)

(9) 北九州市委託事業

受託事業名	事業期間	内容
リチウムイオン電池リユース・リサイクル事業可能性調査業務	25年度	環境局環境未来都市推進室が実施する「リチウムイオン電池リユース・リサイクル事業可能性調査業務」に係る調査業務
北九州市中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業補助業務	24年度～ 26年度	環境局環境国際戦略課が実施する「北九州市中小企業アジア環境ビジネス展開支援事業」に係る審査業務や進捗管理等
起業支援型地域雇用創造事業の運営補助業務	25年度～ 26年度	産業経済局雇用政策課が実施する「起業支援型地域雇用創造事業」に係る市内企業へのPR／申請サポート、当該事業の審査会の開催補助、会計処理に関する業務の補助
多機能テラスシステム発電量評価・保守管理業務	25年度～ 26年度	産業経済局新産業振興課が経済産業省より借り受けている「多機能テラスシステム技術開発及び実証試験設備」に係る発電量評価・保守管理業務

3 地域企業への経営支援と創業の促進

(1) 中小企業経営支援事業

○ 中小企業・ベンチャー総合相談窓口事業

中小企業支援センターに中小企業診断士等の専門家を配置し、中小・ベンチャー企業の技術から経営に至るまでの幅広い相談に応じるとともに、平日の相談が困難な創業予定者等に対し、休日に相談を実施した。

年間相談件数947件（うち休日相談件数4件）

○ 専門家派遣事業

中小企業支援センターに登録している中小企業診断士、技術士、税理士、社会保険労務士等の専門家(登録人員197名、平成26年3月31日現在)を必要に応じて中小企業に派遣し、個別の経営課題の解決にあたった。

派遣件数・回数：専門家派遣46件、延べ192回（うち、国の専門家派遣事業：専門家派遣17件、44回）

○ 経営支援情報提供事業

市内中小企業等が経営上必要とする各種情報を機関紙やホームページ、メールマガジン等を通して幅広く提供するとともに、各種セミナーを開催した。

セミナー名	開催日	参加者数・参加企業数
経営課題の弱点克服セミナー	4月25日～、5日間	27名
実践起業塾2013	6月1、2、8、9日	31名
営業力強化セミナー	7月9日	4社
ひびきのサロン	7月24日	75名
起業ビジネスプラン作成セミナー（第1回）	7月27日、8月3日	5名
小売店・飲食店のための資金繰りセミナー	8月5日	15名
起業ビジネスプラン作成セミナー（第2回）	8月31日、9月7日	9名
ネットショップ売上アップ塾	9月3日～、5日間	4名
知的資産経営普及セミナー	9月10日	58名
中小企業会計啓発・普及セミナー（第1回）	9月26日	17名
知的資産経営報告書作成支援セミナー	10月16日、 11月5日、11月19日、 12月3日～、4日間	5社
北九州取引拡大商談会	11月14日	10社

ネットショップ経営者シンポジウム	11月30日	36名
中小企業会計啓発・普及セミナー（第2回）	12月5日	17名
女性起業家「ベンチャーマーケット&フォーラム」	12月14日	98名
起業ワンポイントセミナー	1月15日	18名
起業フォローアップセミナー	2月13日	33名
知的資産経営フォーラム2014in九州	2月19日	5社
ビッグマーケット2014出展	2月20、21日	14社
支援事例発表会	3月11日	37名
実践あきない塾	3月17日	50名

○ 販路開拓支援プロジェクト

公募により選定した市内企業3社の優れた製品や技術について、市内外の企業等へ売り込みや、関東関西での商談機会の提供、展示会でのPRなど、販売促進を中心とした支援を行った。

企業名	対象商品
大久保設備工業(株)	丸型ダクト「スパイラルエルボ」
(株)松村機械産業	ダブルチェーン駆動式カーブエプロンコンベア「Revius（レビウス）」
(株)山一物産	「ぬかだきジョーズ（上手）」

上記支援対象企業3社の支援商品売上推移（単位：千円）

項目	平成24年度	平成25年度	伸び率
支援商品売上	1,960	21,455	9.9倍

○ 自動車産業振興事業

年間約150万台の生産能力を有する国内の一大生産拠点となった北部九州地域の自動車産業の動向に対応するため、自動車産業の生産技術の向上や受注拡大に経験と専門的能力を持った人材を活用し、市内中小企業の技術力向上や人材の確保・育成を図り、地場企業の自動車産業への新規参入や事業拡大を支援した。

事業名	助成対象企業名
技術力向上事業	松本工業(株)
取引拡大事業	(株)C&G システムズ、(株)富士精工、オグマ工業(株)

○ 巡回指導・マッチングコーディネーター事業

企業ニーズの積極的な掘り起こしや営業先・外注先のマッチング、各種支援情報の提供などを行う巡回専門相談員を配置したほか、マネージャーによる新事業展開や販路開拓を支援した。

項目	件数
巡回指導件数	289件/年
マッチング件数	104件（企業同士を仲介、面談）
上記のうち成約件数	10件（金額ベース2,684万円）

○ 中小航空機産業調査事業(北九州市委託事業)

市内企業を中心とした航空機産業への参入可能性を調査するため、主要な航空機関連企業のニーズを調査した。また、そのニーズ調査をもとに航空機産業に参入可能と思われる市内企業等とのマッチングを実施した。

(2) 北九州知的所有権センター運営事業

工業所有権の閲覧、出願等に関する相談・指導、未利用特許の流通等を行う知的所有権センター（テクノセンタービル内に設置）を運営し、地元企業の新技術・新製品開発や新たな特許の取得促進を支援した。

- ・ 特許相談と支援・・・372件
- ・ 専門家（弁理士）による無料相談と派遣による支援・・・146件
- ・ インターネット出願件数・・・36件
- ・ 特許の流通促進のための活動・・・訪問企業数延べ147社
- ・ 知財セミナー開催

テーマ	開催日	参加者数
ピンと感じる「知的財産の活用とリスク」	9月19日	24名
『中小企業のための海外出願の留意点』 *第13回産学連携フェア内で開催	10月25日	27名
『知財オープンイノベーションによる中小企業の飛躍』	2月6日	24名

(3) ベンチャー育成補助事業

○ インキュベーション・マネージャー配置事業

市内インキュベーション施設に入居するベンチャー企業に対して、インキュベーション・マネージャーによる創業から事業化までのきめ細かい支援を行うとともに、学研都市の大学発ベンチャー企業及び市内ベンチャー企業の創出・育成を推進した。

【市内のインキュベーション施設（平成26年3月末現在）】

施設名	設置者	対象業種	入居者数	目的
北九州テクノセンター	(株)北九州テクノセンター	サービスなど	4	ニュービジネスなどの起業支援
北九州テレワークセンター	北九州市	情報通信関連	9	情報系、情報関連サービス業などの支援
九州ヒューマンメディア創造センターインキュベーションルーム	(公財)九州ヒューマンメディア創造センター	コンテンツ	3	マルチメディア、コンテンツ系ベンチャー企業の支援
北九州学術研究都市産学連携施設	北九州市	研究開発、大学知財活用、大学発ベンチャー	3	大学の知財活用、研究開発型ベンチャー企業の支援
北九州市立起業家支援工場	北九州市	ものづくり、生産型	4	商品試作、生産のための工場を提供し製造業を支援
合 計			23	

○ テクノセンターインキュベーション室助成

独自の創造的技術やビジネスモデルを構築して起業を志す者に北九州テクノセンタービル内のインキュベーション室（6室）を安価に提供（家賃の2分の1を助成）した。

（平成25年度実績：5社）

○ 北九州ベンチャーイノベーションクラブ運営事業

ベンチャー企業の支援ネットワーク「北九州ベンチャーイノベーションクラブ（KVIC）」〔ベンチャー会員33社、一般会員99社、支援会員109団体、計241団体〕において、交流促進やビジネス推進に向けた各種事業を展開した。

① KVICフェア

KVIC会員の販路開拓及び新規顧客開拓支援のため、「KVICフェア」（展示商談会）を開催し、ビジネスパートナーの発掘及びマッチングを行った。

展示会等	開催日	参加者数
第8回KVICフェア （北九州テレワークセンター A会議室） 【会員10社のプレゼンと商品説明会】	11月14日	66人

② KVIC展示会出展事業

KVIC会員の大規模展示会出展経費の一部を助成することにより、ベンチャー企業等の販路開拓を支援するとともに、KVIC活動をPRした。（支援企業：2社）

③ 広域ビジネスマッチング事業

国内10箇所のインキュベータが共同で推進する「ビジネス・インキュベータ・ジャパン（BIJ）」の「協創マッチングフォーラム」にKVIC会員が参加し、関東地域の大手企業と商談を行った。（支援企業：1社）

4 学研都市のPRと効率的な施設運営

(1) 効率的な財団運営

○ 職員提案制度の実施

F A I S職員の積極的な意見を財団運営に反映させるため、平成24年度に「F A I S職員提案制度」を創設した。平成25年度は、29件の応募があり、職員提案審議会において審議した結果、10件の提案に取り組むこととした。

*取り組んでいく主な提案

- ・ 物品供給等に関する業者一覧表の作成と効果的な発注
- ・ 学研都市ガイドマップの作成と魅力発見ツアーの実施
- ・ 国プロジェクト（経産省サポイン事業）に係る申請プロセスの標準化
- ・ 財団共有ファイルサーバにおけるフォルダおよびファイルの整理

○ 事務費・人件費の削減

賃借料（コピー機リース料、会議室の借り上げ等）の見直しや旅費交通費・消耗品費の節減などにより、事務費を対前年度比10.6%（4,974千円）削減した。また、職員配置や給与の見直しにより、人件費を44,805千円削減した。

(2) 学研都市の知名度の向上

○ 学研都市のPR事業

① 【新規】工業系全国紙記事掲載及びPR冊子作成

学研都市での産学連携成果をPRするため、工業系全国紙とタイアップして企画連載記事（計10回）を掲載するとともに、その記事をもとにした冊子「北九州学術研究都市の産学連携最前線 Vol.1」を作成（5,000部）して、広報に取り組んだ。

② 積極的な情報発信

市政記者クラブ向けに、プレスリリース（33件）を発信したほか学研都市見学ツアーの開催、市産経局との合同記者会見を行うなど積極的な情報発信を行った。それらの取り組みの結果、テレビや新聞等で136件報道された。

*報道件数内訳：テレビ29件、雑誌5件、新聞102件

③ コミュニティFM放送による情報発信

学研都市に本社スタジオがあるAir Station Hibiki(株)を活用し、毎週木曜日の午後3時から4時まで、学研都市と地域を結ぶラジオ番組「学研都市へ行こう！」を放送した。

学研都市内の大学(院)・研究機関・企業などの研究者や学生などが、研究開発情報の紹介、セミナーやイベントの告知、利便施設の紹介、キャンパスライフの紹介などの情報を発信し、学研都市とそれを支えるF A I Sの役割や成果をラジオを通じてPRした。

*放送回数：52回

④ 「ひびきのNEWS」の発行

学研都市の活動を内外に紹介する「ひびきのNEWS」を年間約6,000部（2回／年）発行し、学研都市のPRを図った。

⑤ オープンキャンパスの同時開催

ひびきの祭時に（11月9日、10日）、オープンキャンパスを学研都市の3大学で同時開催した。

⑥ 学研サイエンスカフェ

学研都市の研究者と市民が自由な雰囲気の中で気軽に交流しながら最新の科学情報に触れられる「サイエンスカフェ」を2回開催した（延べ52名参加）。

回	テーマ	開催日	参加者数
第15回	電子ピアノを作ろう！ ～電子部品や電子回路ってなんだろう～	8月20日	27名
第16回	iPS細胞からの眺め ～生命が創りだしたエピゲノムへの挑戦～	11月10日	25名

⑦ 視察・見学の受入れ

国内外の企業や学校、官公庁等からの視察への対応や、地域住民による見学の受け入れを行い、学研都市のPRに努めた。

*視察（見学）件数：109件、視察（見学）者数：1,126名

⑧ 学研都市コンベンション開催助成金交付事業

北九州学術研究都市内で開催されるコンベンション等の主催者に対し、開催に係る経費の一部を助成することにより、学研都市へのコンベンション誘致と知名度向上に努めた。

*助成件数：2件（北九大1件、早稲田大1件）

○ 学術研究都市地域交流事業（ひびきの祭）

学研都市のPRと地域との交流を図るため、11月9日（土）・10日（日）に「ひびきの祭」を「北九州市立大学ひびきの大学祭」と共催し、約12,000名の来場者があった。

大迫力の空気砲などを使って、科学を楽しみながら学ぶことができる体感型ステージ「善ちゃんの『笑いと驚きのサイエンスショー』をはじめ、小学生から大人まで来場者全員が挑戦できる『国際水協力年』モノシリラリー」「ふしぎ体験！LED工作教室～家族で省エネ大作戦～」などの催しを実施した。

(3) 学術研究施設等管理運営事業

○ 学術研究施設管理運営事業

① 北九州学術研究都市の指定管理者として、学研都市内施設の効果的・効率的な管理運営を行うとともに、学研都市施設の利便性向上に向けた取り組みを行った。

【管理を行った施設】

- ・ 産学連携センター（1号館）・産学連携センター別館・共同研究開発センター（2号館）
- ・ 情報技術高度化センター（3号館）・事業化支援センター（4号館）
- ・ 技術開発交流センター（5号館）・環境エネルギーセンター
- ・ 学術情報センター ・会議場 ・体育館等体育施設

【研究室の入居状況（平成26年3月末現在）】

入居施設	室数	入居室数	入居企業等の数
産学連携センター（1号館）	31（31）	20（22）	9（11）
産学連携センター（別館）	9（9）	0（0）	0（0）
共同研究開発センター（2号館）	7（7）	4（4）	3（3）
情報技術高度化センター（3号館）	24（24）	9（13）	7（9）
事業化支援センター（4号館）	44（44）	31（35）	29（31）
技術開発交流センター（5号館）	48（47）	35（24）	20（15）
合計	163（162）	99（98）	68（69）

*（ ）内は平成25年3月末現在の室数、企業等の数

*5号館の大型実験室をブース単位に細分化している。

② 情報システム機能改善

各種システムの老朽化による更新の際に、機能・利便性向上や運用コスト削減を勘案した改修を行った。

区分	実施内容
キャンパスネットワーク関係	<ul style="list-style-type: none"> ・学研キャンパスネットワーク再編成計画書の策定（次期再編成に向けた取組） ・ひかり電話の導入（電話基本料・通話料の削減及び電話サービスの充実化） ・メールサービスのクラウド化（設備更新・運用コストの削減） ・負荷分散装置更新（安全・安定性確保） ・PROXY用ウイルス検知システム更新（安全・安定性確保） ・ゲートウェイスイッチ用無停電電ガン装置更新（安全・安定性確保）
利用申請システム関係	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスカードの大量再発行（入退出管理システム更新に伴う対応）

教育設備関係	<ul style="list-style-type: none"> ・会議場映像機器更新（安全・安定性確保） ・CAI室1、2中間モニタ更新（機能向上・安定性確保） ・遠隔講義室Ⅰ～Ⅲプロジェクタスクリーン更新（機能向上・安定性確保）
図書館関係	<ul style="list-style-type: none"> ・専門図書室セミナー用及び一般図書室蔵書検索用端末更新（機能向上・安定性確保）

③ 図書館の機能及びサービス改善・向上

区 分	実 施 内 容
一般図書室	・親子DVD上映会を春、夏、冬の3回開催。好評につき今後も継続開催予定
	・市民に児童書を中心にリサイクル本の提供を呼びかけ、ひびきの祭時に、充実したリサイクルフェアを開催。「しかけ絵本展」を併設
	・長年の懸案であった一般図書室における月曜貸出を、中央図書館に了解をとり、年度当初より実施
	・一般図書室の机にキャレル（仕切り板）を設置し、閲覧席環境の改善を図った。 ・汚れがひどかった児童及び成人用椅子のクロス張替を実施
専門図書室	・北九大の全学部生を対象とした「図書館リテラシー」講習を実施
	・昨年度に引き続き、学生に好評である「選書ツアー」を実施。
	・就職・資格試験コーナーを設置 ・26年度より実施する専門図書室における貸出基準改定（学部生、院生、教職員毎に貸出冊数・貸出期間を設定）に対応するため、専門図書室システムを改修。
	・集密書庫のカビ対策として除湿機を設置し、全棚の大掃除を実施
情報設備関係	*上記、情報システム機能改善の「図書館関係」に記載

【図書館利用状況】*（ ）内は平成24年度の実績

区 分	開館日数	入室者(人)	貸出利用者(人)	貸出冊数(冊)	蔵書数(冊)
一般図書室	(336)	(50, 779)	(23, 323)	(92, 619)	(52, 748)
	335	51, 539	24, 326	93, 956	54, 005
専門図書室	(336)	(111, 569)	(8, 969)	(17, 947)	(96, 642)
	335	110, 242	9, 601	20, 092	98, 270
合 計	—	(162, 348) 161, 781	(32, 292) 33, 927	(110, 566) 114, 048	(149, 390) 152, 275

○ 北九州テレワークセンター管理運営事業

北九州テレワークセンターの指定管理者として、インキュベーション施設の効果的・効率的な管理運営を行った。

【管理を行った施設】

- ・ オープンテレワークスペース
- ・ スモールオフィス
- ・ 一般オフィス 等

○ 施設の入居状況

【スペースの入居状況（平成26年3月末現在）】

入居施設	室数	入居室数	入居企業等の数
スモールオフィス	18（18）	15（15）	15（15）
一般オフィス	21（19）	16（13）	14（11）
合計	39（37）	31（28）	29（26）

*（ ）内は平成25年3月末現在の室数、企業等の数

【収益事業等会計】

（1）学研都市施設活用事業

収益事業（駐車場管理運営、自動販売機設置）を実施し、学研都市の入居者や来訪者の利便性の向上に寄与した。

【法人会計】

（1）財団の管理運営等

財団を運営していくために必要な人件費及び事務費を支出した。